



令和5年8月6日(日)尾西生涯学習センターにて

「第5回 出前実験授業 くすり教室一宮2023」を開催。

共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構(NPO J-DO)・
一般社団法人 一宮市薬剤師会・一宮市教育委員会

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、地域の方々や学生に「くすり」や「薬物依存」のことを知ってもらう授業や体験実験を、特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構(NPO J-DO)の協力の下に行っています。名城大学 Enjoy Learning プロジェクト(通称:Eプロ)の学生と共に今年度3回目の活動を行いました。

一宮市薬剤師会会長 小川勝人先生、理事 原 明美先生、一宮市市長 中野正康様 および一宮市教育委員会教育長 高橋信哉先生のご尽力により、令和5年8月6日(日)、尾西生涯学習センターにて「第5回 出前実験授業 くすり教室一宮2023」を4年ぶりに下記の内容にて開催しました。午前中には名城大学薬学部 野田幸裕教授、間宮隆吉准教授(NPO J-DO 理事)およびEプロの薬学生(5年生7名、4年生2名)が、一宮市薬剤師会の薬剤師(26名)に対して講義内容や実験手順の説明を行いました。午後からは、小学生4~6年生73名が「くすり」について学び、「他の「くすり」にも興味を持ちました」と感想を頂きました。

尾西生涯学習センターにおける「くすり教室」

日時：令和5年8月6日(日) 14時00分~16時00分

場所：尾西生涯学習センター6階大ホール

内容：

・「実験を始める前のお話」：Q&A方式

くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるか、児童参加型のQ&A方式で行いました。一宮市薬剤師会理事の野々垣秀宣先生がスライドを使用してわかりやすく説明し、小学生が元気よく挙手して活発に問いかけに答えてくれました。

・「体験実験」

内容をより理解できるように小学生は、18班(1班3~5名)に分かれ、一宮市薬剤師会の薬剤師、鍋島俊隆先生(NPO J-DO 理事長)、野田幸裕教授、間宮隆吉准教授、Eプロの薬学生の補助・解説を受けながら体験実験を行いました。「カプセルが濡れた手で触ると段々ベタベタしてくる!」「酸っぱい粉を入れると、うがい薬の色が消えちゃった!」と大好評でした。

<実験項目>

1. コップ1杯の水かぬるま湯で「くすり」をのむのはなぜ?
2. 水がなくても飲める薬があるのを知ってる?
3. 「くすり」を「お茶」で飲むとどうになってしまうの?
4. 「うがいぐすり」でうがいした後に、
すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの?

制作：Eプロ(名城大学薬学部病態解析学I：加藤朱莉、野田幸裕)、薬品作用学(間宮隆吉)

